

彦根市一般廃棄物処理基本計画
平成28年度 進捗状況評価
(案)

平成29年 月

彦根市廃棄物減量等推進審議会

※彦根市一般廃棄物処理基本計画の計画年度は、平成26年度から平成34年度です。

減量・資源化目標数値に対する総合評価



評価平均点 点

(平成 27 年度 評価平均点 2.78 点)

- 凡例
- A : 進捗管理値より進んでいる
 - B : 進捗管理値より遅れている
 - C : 進捗管理値より遅れており、かつ平成 27 年度よりも悪化している

※平成28年度減量・資源化目標数値に対する総合評価については、ごみ処理編と地域行動計画編双方の『総合実績』において、「目標値と実績値」を○、△、×で評価したものを、下記の方法により点数化し評価している。

点数… ○:3点、△:2点、×:1点

評価…平均点が

2.5点以上 ⇒ A、1.5点以上～2.5点未満 ⇒ B、1.5点未満 ⇒ C

減量・資源化施策の取組状況に対する総合評価



評価平均点 点

(平成 27 年度 評価平均点 2.33 点)

- 凡例
- A : 取組が十分されている
 - B : 取組はされているが不十分
 - C : 取組がされていない

※平成28年度減量・資源化施策の取組状況に対する総合評価については、ごみ処理編での『施策ごとの取組状況とその評価』および地域行動計画編での『目標ごとの取組状況とその評価』において、○、△、×で評価したものを、上記の減量・資源化目標数値に対する総合評価と同様に点数化し評価している。

平成 28 年度 一般廃棄物処理基本計画の取組状況について

ごみ処理編

1. 趣旨

一般廃棄物処理基本計画（平成 25 年度から平成 34 年度）の着実な推進を図っていくため、施策の進捗状況について評価を行い、今後の取組の方向性を明らかにするなど、基本計画の取組状況について報告するものです。

2. 基本計画の取組み状況について

1) 総合実績

ア) 目標値と実績値

	基準 (H23)	H27 実績	H28 実績	H28 進捗管理値※	目標 (H34)	評価
ごみ等排出量 (t)※	44,537	39,893	36,877	41,024	37,000	○
(g/人・日)※	1,086	967	895	984	899	○
再生利用率 (%)	14.2	15.6	16.9	17.5	20	△
最終処分量 (t)	7,256	6,052	4,290	6,143	5,200	○
焼却量 (t)	35,061	31,553	30,286	31,787	28,100	○

※「ごみ等」＝彦根市では、「燃やすごみ」や「埋立ごみ」などを「ごみ」と称し、リサイクルできる「古紙」「缶・びん」などを「資源物」として分別意識の向上を促進している。これら、「ごみ」と「資源物」を併せた呼称を「ごみ等」という。

※ ごみ等排出量 ＝ 家庭系一般廃棄物量と事業系一般廃棄物量の合算値

※ g/人・日：1人1日あたりのごみ等排出量 ＝ ごみ等排出量を彦根市人口（各年 10 月 1 日時点）と 1 年の日数（365 日または 366 日）で除したもの

※ 進捗管理値：平成 34 年の目標を達成するために、比例配分で各年度に達成すべき値

表：目標値と実績値の評価凡例

「○」：平成 28 年度実績値が進捗管理値を達成している。

「△」：平成 27 年度と比較して、平成 28 年度実績値は改善しているが進捗管理値には達していない。

「×」：平成 27 年度と比較して、平成 28 年度実績値が悪化しておりかつ、進捗管理値に達していない。

イ) 目標に対する達成状況

○ごみ等の減量の状況（資料編： ）

ごみ等排出量は、平成 27 年度と比較して、3,016 トン減少している。平成 27 年度に引続き収集運搬許可業者が搬入する事業系一般廃棄物の搬入量が大きく減少しており、平成 27 年度と比較して、1,653 トン減少している。また埋立ごみの直接搬入量も減少しており、644 トン減少している。

ごみ等排出量が大きく減少したことで、平成 28 年度における進捗管理値を達成することができたほか、平成 34 年度における目標値である、37,000 トンも達成できている。また、1人1日あたりのごみ等排出量につ

いても、平成 28 年度における進捗管理値および平成 34 年度における目標値を達成することができた。

○再生利用率の状況（資料編： ）

草木・剪定枝や小型家電など近年新たに資源化を開始した品目については回収量が増加しているのに対して、古紙等の集団回収量や行政回収量が減少しており、資源化量としては横ばいとなっている。

再生利用率（リサイクル率）としては分母となるごみ等排出量が平成 27 年度と比較して減少していることから上昇はしているが、進捗管理値には達していない。

○最終処分の状況（資料編： ）

埋立ごみの排出量は、火災等により発生する廃棄物が減少しており、前年度と比較し 714 トン減少している。また、埋立ごみの処理を民間へ委託したことに伴い、埋立ごみの中間処理（選別）が行われるようになり、直接埋立てられるごみの量が減少している。また、大阪湾広域臨海環境整備センター（大阪湾フェニックスセンター）で処分される焼却灰等の量は、焼却量が減少したことにより平成 27 年度と比較して減少している。

最終処分量としては、上記のとおり特に埋立ごみが大きく減少していることから、前年度と比較して 1,762 トン減少しており、進捗管理値および平成 34 年度における目標値を達成することができた。

○焼却の状況（資料編： ）

搬入物検査の強化や廃棄物の処理手数料の改定などにより、事業系一般廃棄物の搬入量が大きく減少していることから、燃やすごみの量が減少している。

焼却量としては平成 27 年度と比較して 1,267 トン減少しており、進捗管理値を達成することができた。

2) 評価の概要

○ごみ等排出量を減らすための取組

○再生利用率を上げるための取組

○最終処分量を減らすための取組

○焼却量を減らすための取組

3) 評価の詳細

総合実績と評価の詳細を示します。その中でも「評価」の項目については、下記の凡例により評価しています。

※定量的評価の凡例（数値であらわせるもの）

「○」：平成 28 年度実績値が進捗管理値を達成している。

「△」：平成 27 年度と比較して、平成 28 年度実績値は改善しているが進捗管理値には達していない。

「×」：平成 27 年度と比較して、平成 28 年度実績値が悪化しておりかつ、進捗管理値に達していない。

※定性的評価の凡例（数値であらわせないもの）

「○」：取組が十分されている

「△」：取組はされているが不十分

「×」：取組がされていない

地域行動計画編

1 趣旨

一般廃棄物処理基本計画(平成 25 年度から平成 34 年度)の着実な推進を図っていくためには、市民自らが、地球環境も視野に入れた持続的発展が可能な社会の実現を目指し、廃棄物の減量と資源化の行動を実践する必要があります。よって、市民・市民団体・事業者が実践した行動の進捗状況について評価を行い、行動計画の取組状況について報告するものです。

2 行動計画の取組状況について

1) 総合実績

ア 目標と実績

	基準(H23)	H27 実績	H28 実績	H28 進捗管理値	目標(H34)	評価
1人1日あたりのごみ等排出量(g/人・日)	1,086	967	895	984	899	○
1人1日あたりの生ごみ排出量(g/人・日)※	424	333	377	377	320	○
古紙・衣類の資源化量(t)	3,901	4,032		4,400	5,000	
出前講座等の参加者数(人)	600	2,134	2697	1,691	3,000	○

※1人1日あたりの生ごみ排出量 =

当該年度の平均組成割合を使用し算出している。例えば平成 27 年度では、燃やすごみの水分の平均割合が 49.4%であることから、平成 27 年度の燃やすごみ総量(28,790t)のうち 14,214トンが水分となる。よって、乾燥重量(水分を除いた重量)は、14,576 トンなる。乾燥重量のうち、厨芥類の平均組成割合は、9.1%であることから 1,326 トンとなるが、燃やすごみのうち水分を含むごみとして大半が厨芥類であることから、水分を加えた 15,540トンが生ごみ量となる。これを当年度 10 月 1 日現在の人口と 1 年間の日数(365 日または 366 日)で除した数値。

目標と実績の評価凡例

「○」: 平成 28 年度実績値が進捗管理値を達成している。

「△」: 平成 27 年度と比較して平成 28 年度実績値は改善しているが進捗管理値には達していない。

「×」: 平成 27 年度と比較して、平成 28 年度実績値が悪化しておりかつ、進捗管理値に達していない。

イ 実績に対する評価

○1人1日あたりのごみ等の減量の状況 (資料編:)

1人1日あたりのごみ等の排出量は、平成 27 年度と比較して減少しており、進捗管理値および平成 34 年度における目標値を達成することができた。

○1人1日あたりの生ごみ等の減量の状況 (資料編:)

1人1日あたりの生ごみの排出量については平成 27 年度と比較して増加しているものの、過去のデータと比較しても減少傾向にあり、進捗管理値を達成することができている。

○古紙・衣類の資源化の状況（資料編： ）

○出前講座等への参加の状況（資料編： ）

出前講座やイベントへの参加状況については、出前講座の実施回数の増加や、県立大学学園祭でのイベント開催により、参加者が増加しており、進捗管理値を達成できている。

2) 目標ごとの取組状況とその評価

取組み状況と評価の詳細を示します。その中でも「評価」の項目については、下記の凡例により評価しています。

※定量的評価の凡例（数値であらわせるもの）

「○」：平成 28 年度実績値が進捗管理値を達成している。

「△」：平成 27 年度と比較して平成 27 年度実績値は改善しているが進捗管理値には達していない。

「×」：平成 27 年度と比較して平成 27 年度実績値が悪化しておりかつ、進捗管理値に達していない。

※定性的評価の凡例（数値であらわせないもの）

「○」：取組みが十分されている

「△」：取組みはされているが不十分

「×」：取組みがされていない